

八王子城跡 【マップC4】



日本100名城

戦国時代末期の巨大城郭・八王子城は、根小屋地区（家臣団が居住する地域）、御主殿地区（山麓の御主殿曲輪を中心とした城主の執政と居住地）、要害地区（有事の際に立て籠もる山頂周辺の曲輪群）で構成される。八王子城の築城を直接示す記録はないが、関連する文書などから、天正10年（1582）前後に工事を始め、天正15年頃に滝山城から移ってきたと考えられている。天正18年6月23日早朝、城主北条氏照不在（本城の小田原城で籠城中）の城は老臣や領民などが守備していたが、豊臣軍の北国軍の大軍勢の猛攻を受け、わずか半日で落城したと伝わる。



要害部の最高地点の本丸



中の曲輪には八王子神社が鎮座する



御嶽神社跡が残る小宮曲輪



御主殿に渡る曳橋と御主殿虎口



落城時の哀話が伝わる御主殿の滝



御主殿は復元的整備がされている



高尾山から望む八王子城跡



御主殿へ向かう大手道



山麓にあるガイドンス施設